

教育研究業績概要

氏 名 栢谷 史郎 ()		
研究分野	所属学会等の名称	
神経科学、神経発達学、解剖学	日本神経科学会、日本解剖学会、日本分子生物学会、日本 DOHaD 研究会、日本脳科学会、日本腸内細菌学会、日本栄養・食糧学会、日本生理学会、Society for Neuroscience	
担当授業科目名 医学を学ぶための基礎知識、解剖学、人体の形態・構造、応用解剖学、解剖学演習、解剖学実習		
教育上の能力に関する事項		
事 項	年	概 要
1 教育の実践例、教育に関する評価等 ・徳島大学医学部ベストティーチャーオブザイヤー2008 ・授業の工夫	2009年 2017年～現在	徳島大学医学部医学科学生の投票に基づく評価 教科書学習を中心とする、パワーポイントやプリントを用いた授業。折々の学生アンケートに基づく授業形式、授業内容へのフィードバック。
2 作成した教科書、教材、指導書等 ・「医療人の基礎知識」[第2版] 三重大学出版会	2017年	共著 鈴鹿医療科学大学編 医学を学ぶための基礎知識 第3章人体の成り立ち—心臓と血管— pp. 46-48.
3 教育実践に関係がある実務経験・委員・講師等 ・平成28年度奥越青少年愛護センター補導委員研修会講師	2016年	講演「子どものこころの発達—腸内細菌の観点から」
職務上の実績（学術団体や社会等における活動）に関する事項		
事 項	年	概 要
1 資格、免許、特許、受賞等 徳島大学医学部・助教 福井大学子どものこころの発達研究センター・特命助教 大阪大学大阪大学大学院 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連小児発達学研究所 福井校・助教（兼任） 福井大学子どものこころの発達研究センター・客員准教授 千葉大学・客員研究員	2008～2013年 2013～2017年 2013～2017年 2017年～現在 2017年～現在	任命権者：徳島大学長 任命権者：福井大学長 任命権者：大阪大学長 称号授与権者：福井大学長 称号授与権者：千葉大学長
2 学術・社会活動上の・委員・講師・実務経験等 ・公益社団法人福井県看護協会助産師職能集会/研修会・講師 ・第52回つくば実験動物研究会・講師 ・第5回腸内細菌をターゲットにした食品開発研究会・講師 その他6件	2017年 2016年 2016年	招待講演「周産期母体腸内細菌と子どもの脳発達」 招待講演「脳発達と腸内細菌叢—母子相関の観点から」 招待講演「母子相関に基づく子の脳発達における母体腸内細菌叢の役割の可能性」

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

著書名, 報告書名等	単・共著の別	発行年	発行所等の名称	著者名・ページ数等
<p>(著書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読んで効くタウリンのはなし ・ Cortical Development: Neural Diversity and Neocortical Organization 	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>2016</p> <p>2013</p>	<p>成山堂書店</p> <p>Springer</p>	<p>村上 茂監修 国際タウリン研究会 日本部会著第3章第2節「胎児・乳児のタウリン」 pp.98-pp.105.</p> <p>Kageyama R, Yamamori T 編 Komatsu Y, Toita S, Ootsuka M, Takahata T, <u>Tochitani S</u>, Yamamori T. 第13章「Genes selectively expressed in the visual cortex of the Old World Monkey」 pp. 236-276.</p>
<p>(報告書等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)研究成果報告書 若手(B) 課題番号 23791227 「神経前駆細胞形質制御の攪乱を介した GABAA 受容体標的薬の催奇形性の機序の解明」 ・科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)研究成果報告書 若手(B) 課題番号 21791035 「大脳皮質原基神経幹細胞の成熟、分化へのエタノールの影響と作用機序の解析」 	<p>単著</p> <p>単著</p>	<p>2013</p> <p>2011</p>	<p>日本学術振興会</p> <p>日本学術振興会</p>	<p>研究代表者: 栃谷 史郎</p> <p>研究代表者: 栃谷 史郎</p>
<p>学術論文 学会発表等の題名</p>		<p>発表者名</p>	<p>発表誌名・巻・ページ・発表年等 学会名・発表年・開催都市名等</p>	
<p>(学術論文)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Functions of maternally-derived taurine in fetal and neonatal brain development. ・ 周産期母体腸内細菌叢と児の脳発達 ・ 腸内フローラと中枢神経系の発達 <p>(他 17 篇)</p>		<p><u>Tochitani S.</u></p> <p><u>栃谷 史郎</u></p> <p><u>栃谷 史郎</u></p>	<p><u>Adv Exp Med Biol in press.</u></p> <p>腸内細菌学雑誌 31: 33-41, 2017.</p> <p>分子精神医学 17(1): 35-41, 2017.</p>	
<p>(学会発表等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母体由来タウリンはマウス発生期大脳皮質神経系前駆細胞の内在的性質を制御する ・母子相関に基づく子の脳発達における母体腸内細菌叢の機能 ・ Perturbing maternal gut microbiota during pregnancy leads to changes in the behavior of offspring. <p>(その他 31 件)</p>		<p><u>栃谷 史郎</u></p> <p><u>栃谷 史郎</u></p> <p><u>Tochitani S, Matsuzaki H.</u></p>	<p>第 94 回日本生理学大会 シンポジウム「タウリンの多彩な生理機能」、2017 年、浜松市</p> <p>第22回Hindgut Club Japanシンポジウム、2016年、東京都</p> <p>第 5 回日本 DOHaD 研究会学術集会、2016 年、東京都 (優秀ポスター賞受賞)</p>	
<p>(その他)</p>				